

主 文

本件各上告を棄却する。

当審における訴訟費用は被告人Aの負担とする。

理 由

被告人Aの上告趣意及び同被告人の弁護人坂上寿夫の上告趣意は、事実誤認又は量刑不当の主張を出でないから、適法な上告理由とは認め難い。

被告人Bの弁護人樋渡直人の上告趣意は、違憲をいうが、その実質は事実誤認又は単なる訴訟法違反の主張に帰し、適法な上告理由と認め難い。

被告人Cの弁護人柴碩文の上告趣意第一点は、違憲をいうが、その実質は単なる訴訟法違反の主張であり、同第二点は、量刑不当の主張であつて適法な上告理由と認め難い。（被告人は第一審の裁判時には少年ではなかつたのであるから、所論の違法もない。判例集三巻九号一四八九頁、同一〇号一六二〇頁参照）。また記録を調べても同四一条を適用すべきものとは認められない。

よつて同四一条、三八六条一項三号、一八一条（但し被告人Aに対し）により裁判官全員一致の意見で主文のとおり決定する。

昭和二八年九月一七日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	真	野		毅
裁判官	斎	藤	悠	輔
裁判官	岩	松	三	郎
裁判官	入	江	俊	郎